

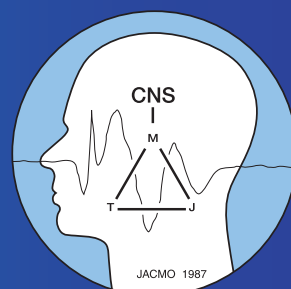
第23回 日本顎頭蓋機能学会 学術大会

*23rd Annual Convocation of the Japan Association of
Cranio-Mandibular Orthopedics*

プログラム・抄録集
Program and Abstracts

会期：平成21年**10月3日(土)**，**4日(日)**

会場：東京慈恵会医科大学 南講堂（高木2号館地下1階）
〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8



日本顎頭蓋機能学会
<http://www.jacmo.jp/>

第23回

日本顎頭蓋機能学会学術大会

*23rd Annual Convocation of the Japan Association of
Cranio-Mandibular Orthopedics*

プログラム・抄録集

Program and Abstracts

会期：平成21年 **10月3日** 土・**4日** 日

会場：東京慈恵会医科大学 南講堂
(高木2号館地下1階)

〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8

後援 東京都歯科医師会

日本顎頭蓋機能学会

INDEX

大会長挨拶	3
お知らせ	4
交通のご案内	6
会場案内図	7
大会日程	8
プログラム	9
特別講演Ⅰ	18
特別講演Ⅱ	20
教育講演Ⅰ	22
教育講演Ⅱ	24
シンポジウム	26
ランチョンセミナー	32
認定医研修セミナー	34
一般演題抄録	36
協賛企業	62
広告	63

食・嚥下・会話など、あごの機能維持を考える

第23回日本顎頭蓋機能学会 大会長

杉崎 正志



第23回日本顎頭蓋機能学会の大会長を拝命いたしましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。本学会は東京都歯科医師会のご後援を頂きましたこと御礼申し上げます。今回の学会は本学会の持つ長い歴史の中で、初めての東京開催とのことです。これは覚道理事長から強く言われましたが、多くの学会員が西日本に在住されているため、果たして演題が集まるのか非常に不安でした。実際に演題を募集してみると、24演題が集まり、関東近辺からは9題を頂く結果となり、安心しております。会場は慈恵医大の講堂を用います。近隣には東京タワー、愛宕山、NHK 放送博物館、杉田玄白の墓がある栄関院などが徒歩数分の所にあります。学会で疲れた頭を是非お休め頂きたいと思っています。

さて、本大会の主題は「食・嚥下・会話など、あごの機能維持を考える」といたしました。高齢者社会を迎えているこの社会は行政はもちろんのこと、歯科医師にとっても、国民にとっても初めての経験であり、多くの試行錯誤がなされています。野生動物にとって「食・嚥下」の困難は直接「死」を意味します。ヒトは文化を持ち、言語をえたことから、様々な工夫で、口腔の原始的機能である「捕食」を捨て、また介護と、協力によって、この長寿社会を迎えています。この介護のなかには技術の深化がみられ、それは診断・治療へと改良が進んでいます。そこで今回の学術大会では、特別講演Ⅰでは岡山大学の窪木拓男教授から「入院患者のクリティカルパスに口腔ケアを組み込んでいただくために—口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーション—」を、教育講演Ⅱでは日本での嚥下内視鏡を用いる歯科医師として菊谷 武先生から「訪問診療で支える高齢者の口腔機能—嚥下内視鏡検査を通じて」ご講演いただき、先生方のスキルアップをねらいました。また顎の機能維持には顎を育て、維持することが必要ですので、特別講演Ⅱでは日本睡眠歯科学会理事長の菊池 哲先生から「睡眠時無呼吸症候群における顎頭蓋形態異常の影響について」お話しいただき、教育講演Ⅰでは都立墨東病院部長の塚越完子先生から「歯科診療時の全身管理—病院歯科の立場から—」、さらに、LOTTE シンポジウムと題して、LOTTE の御協力の下、「チューインガムによる健康力アップ」をお願いいたしました。これらは口腔機能の維持を多方面から考える学際的内容となったと自負しております。今までの学会には無い、貴重なお話も聞かれることと思います。是非とも、東京の初秋をお楽しみ頂き、親交を深め、またの日に再び東日本での学会開催を夢見て、ご挨拶とさせていただきます。

お知らせ

参加者の皆さんへ

- 受付は、10月3日(土)は9時より、4日(日)は8時より会場入口前で行います。事前登録をなされた方は、抄録集をご持参のうえ、名札を付けてご入場下さい。
- 当日登録される方は、受付で当日会費をお支払い後、抄録集、参加証をお受け取り下さい。当日会費は、会員 10,000 円、非会員 12,000 円、大学院生 5,000 円(要学生証の提示)、臨床研修歯科医 5,000 円(要研修医証の提示)、コ・デンタルスタッフ 3,000 円です。
- 参加証の名札は、大会期間中常におつけ下さい。(名札用フォルダは受付にあります)
- 協賛業者の展示を 10月3日(土)13時から17時、10月4日(日)9時から16時まで、会場前エントランスホールにて行っておりますのでお立ち寄り下さい。
- 懇親会は10月3日(土)18時より、会場前「カフェテリア・リーベ」にて行います。当日受付も行いますので、多数の先生のご参加をお待ちしております。当日参加費は 10,000 円です。
- 第1日目の認定医研修セミナーの参加には別途セミナー参加費として医師・歯科医師 6,000 円、コ・デンタルスタッフ 3,000 円が必要となります。
- 大学構内は指定の場所以外全面禁煙です。
- 在宅療養支援歯科診療所施設基準認定研修会の認定について
特別講演、教育講演、ランチョンセミナー、研修医セミナーは上記施設基準研修会の認定を受けております。講演終了後、受講証明書をお渡しいたします。
- 日歯生涯研修事業について
日本顎頭蓋機能学会は日本歯科医学会所属認定分科会として認定されておられませんので、特別研修としての単位は修得できません。特別講演、教育講演、ランチョンセミナー、認定医研修セミナーについては通常の受講研修単位が修得できます。つきましては、プログラムの抄録に日歯生涯研修短縮コードを併記しておりますので、各個人で日本歯科医師会ホームページのメンバーズルームより E-system を介して研修登録をしていただきますようお願いいたします。

一般演題演者の先生へ

- 発表者、共同研究者ともに会員に限りしますので、未入会の方は必ず入会手続きを行ってください。入会されない場合には事後抄録にお名前は掲載されません。
- 発表時間は8分、質疑応答2分です。時間厳守をお願いいたします。
- 発表は、すべて Windows XP、PowerPoint 2003 によるコンピュータプレゼンテーション(単写)にてお願いいたします。
- 会場には、学会発表用 PC を1台用意いたします。原則として個人所有の PC の使用はご遠慮下さい。どうしても他の方法あるいは動画が必要な場合には、事前(9月25日まで)に準備委員会までご相談下さい。他のソフトへのリンク設定は行わないで下さい。

- 発表時間の1時間前までに、発表データを保存した CD-R あるいは USB フラッシュメモリーを受付に提出して下さい。CD-R、USB フラッシュメモリーは当日返却致します。発表データは学会用 PC に複写させていただきますが、発表後は責任を持って消去いたします。
- 次演者は次演者席でお待ち下さい。

一般発表座長の先生へ

- 発表時間は8分、質疑応答2分です。受け持ちのセッションの活発な討論と時間厳守による円滑な進行にご協力をお願いいたします。
- 次座長の先生は受け持ちのセッションの10分前までに、次座長席にお着き下さい。

事後抄録

- 演者の先生は、発表前の発表データ提出時に「事後抄録」を受付に提出して下さい。
- 事後抄録は A4 用紙、1 枚目に演題番号、演題名、所属、氏名（演者に○）を、2 枚目に内容抄録（800 字以内）を記載して下さい。また同時に MS-Word で作成しテキスト形式で保存した抄録を CD-R か USB フラッシュメモリーに保存して提出して下さい。CD-R、USB フラッシュメモリーは当日返却致します。当日提出されない場合には事前抄録を代用させていただきます。

その他

- クロークは用意しておりません。
- 特別講演、教育講演、シンポジウムの講師と役員の方々の控え室を、高木会館5階にご用意いたしました。10月3日（土）は B 会議室を、10月4日（日）は A 会議をご利用ください。

交通のご案内



会場までのアクセス

■地下鉄

- 都営三田線
 - 「御成門」下車(A5出口) 徒歩約3分
 - 「内幸町」下車(A3出口) 徒歩約10分
- 日比谷線
 - 「神谷町」下車(3出口) 徒歩約7分
- 銀座線
 - 「虎ノ門」下車(1出口) 徒歩約10分
- 銀座線・都営浅草線
 - 「新橋」下車(8出口) 徒歩約12分
- 都営浅草線・都営大江戸線
 - 「大門」下車(A2出口) 徒歩約13分
- 丸の内線・千代田線
 - 「霞ヶ関」下車(C3出口) 徒歩約13分

- JR 新橋駅下車 徒歩12分
- 浜松町駅下車 徒歩15分

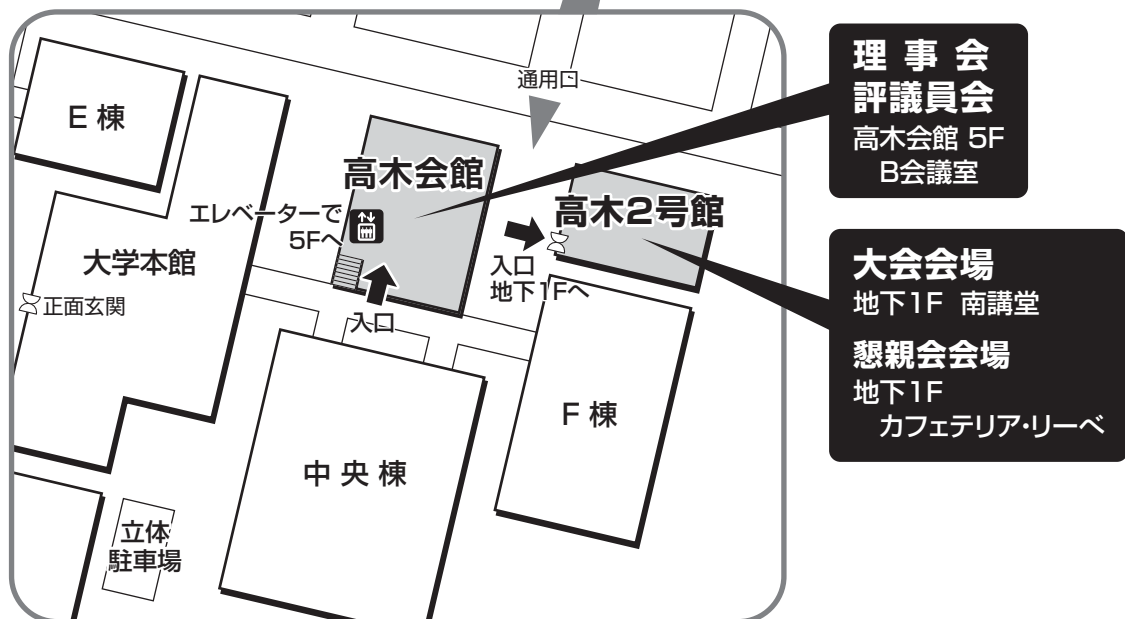
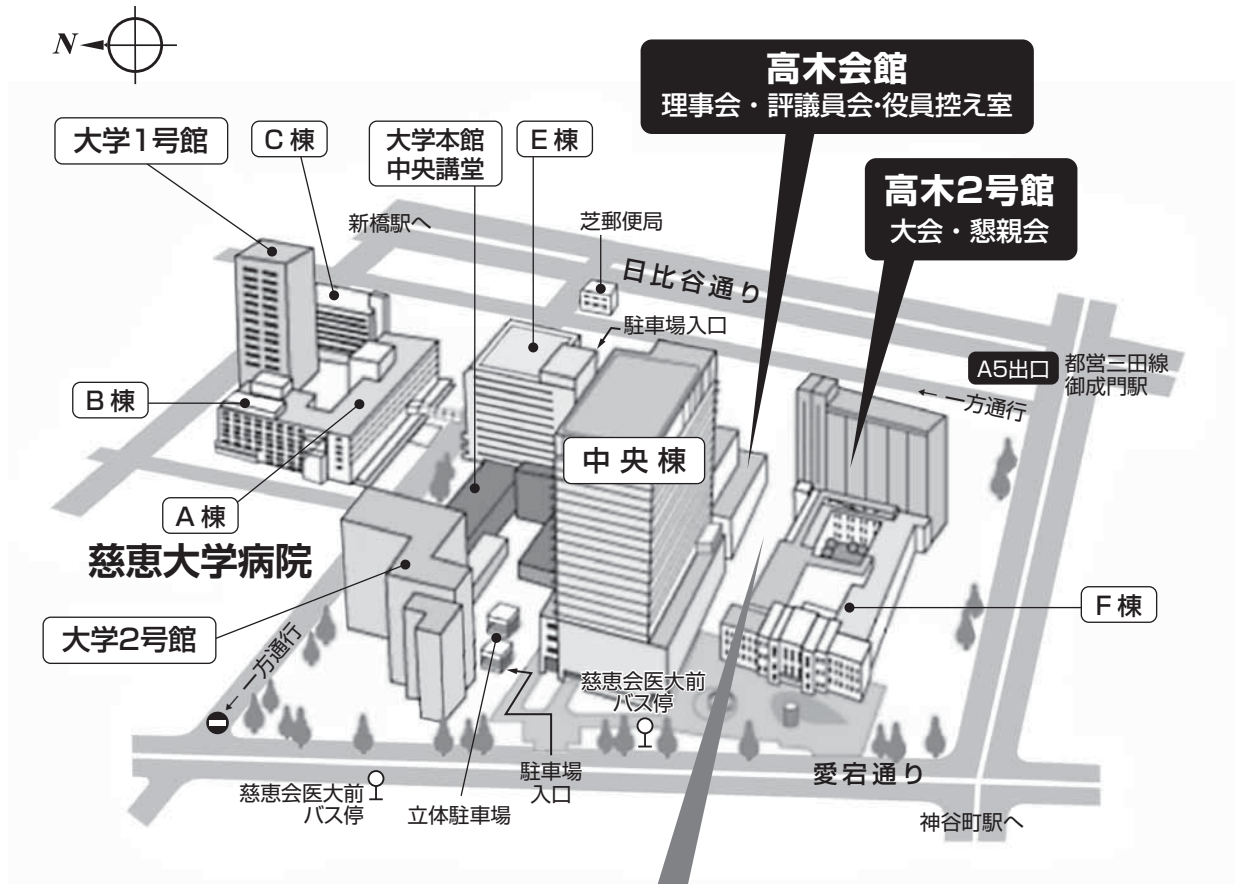
■バス(交通事情により所要時間が異なることがあります)

- 都営バス／東98系統(東急バスと共同運行)
 - 東京駅丸の内南口 → (目黒駅経由) → 等々力操車所前
 - 「慈恵会医大前」または「愛宕山下」下車
 - ※東京駅丸の内南口バス乗り場(5番)より約20分
 - ※1時間に3～4本程度、運行しています
 - ※慈恵大学病院中央棟前、愛宕下通りにバス停があります

■羽田空港よりお越しの方

- 東京モノレール
 - 羽田空港(第1ビル駅または第2ビル駅) → 浜松町駅(JR線へ乗り換え) → 新橋駅
- 京浜急行線(都営浅草線と直通運転)
 - ① 羽田空港駅 → 京急蒲田駅 → 品川駅 → 泉岳寺駅 → 三田駅(都営三田線へ乗り換え) → 御成門駅
 - ② 羽田空港駅 → 京急蒲田駅 → 品川駅 → 泉岳寺駅 → 「大門駅」または「新橋駅」下車

会場案内図



大会日程

10月3日土		10月4日日	
東京慈恵会医科大学 南講堂		東京慈恵会医科大学 南講堂	
その他		その他	
9:00		9:00～9:40 一般演題5 12～15 [調 査] 座長：前田 照太（大阪歯科大学）	9:00～ 16:00
		9:40～10:20 一般演題6 16～19 [その他] 座長：小出 武（大阪歯科大学）	
		10:20～ 休 憩	
		10:30～11:00 一般演題7 20～22 [活動症例] 座長：矢谷 博文（大阪大学大学院）	
		11:00～11:30 一般演題8 23～25 [インプラント] 座長：松香 芳三（岡山大学大学院）	
		11:30～ 休 憩	
		11:50～12:50 ランチョンセミナー [CBCTを活用する：どんな時に効果的で 何を知っていなければならないか] 小林 馨（鶴見大学） 座長：杉崎 正志（東京慈恵会医科大学）	
		12:50～ 休 憩	
		13:00～14:00 特別講演Ⅱ [睡眠時無呼吸症候群における 顎頭蓋形態異常の影響について] 菊池 哲（日本睡眠歯科学会 理事長） 座長：杉崎 正志（東京慈恵会医科大学）	
		14:00～15:00 教育講演Ⅱ [訪問診療で支える高齢者の口腔機能 —嚥下内視鏡検査を通じて—] 菊谷 武（日本歯科大学） 座長：林 勝彦（東京慈恵会医科大学）	
		15:00～16:30 LOTTEシンポジウム [チューインガムによる健康力アップ] 平岡 康隆（株式会社ロッテ 中央研究所） 坂ノ下典正（株式会社ロッテ 中央研究所） 佐伯 洋二（株式会社ロッテ 中央研究所） 座長：杉崎 正志（東京慈恵会医科大学）	
		16:30～ 開会の辞	
10:00	10:00～12:00 認定医研修セミナー [顎関節症の鑑別診断] 杉崎 正志（東京慈恵会医科大学）	9:30～ 11:00 理事会 （高木会館 5階 B会議室）	
11:00		11:00～ 12:00 評議員会 （高木会館 5階 B会議室）	
12:00			
13:00	13:00～ 大会長挨拶 杉崎 正志 13:05～ 学会長挨拶 覚道 健治	13:00～ 17:00	
	13:10～13:40 一般演題1 01～03 [活 動] 座長：小野 圭昭（大阪歯科大学）		
	13:40～14:10 一般演題2 04～06 [TMD] 座長：村上賢一郎（赤穂市民病院）		
14:00	14:10～14:30 一般演題3 07～08 [摂食嚥下調査] 座長：有家 巧（国立病院機構 大阪医療センター）		
	14:30～15:30 特別講演Ⅰ [入院患者のクリティカルパスに口腔ケアを 組み込んでいただくために —口腔ケア、摂食・ 嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーション—] 窪木 拓男（岡山大学大学院） 座長：覚道 健治（大阪歯科大学）	機器展示 （ホワイエ）	
15:00	15:30～16:30 教育講演Ⅰ [歯科診療時の全身管理 病院歯科の立場から] 塚越 完子（都立墨東病院） 座長：杉崎 正志（東京慈恵会医科大学）		
16:00	16:30～ 休 憩		
	16:40～17:10 一般演題4 09～11 [調 査] 座長：田中 昌博（大阪歯科大学）		
17:00	17:10～17:40 総 会		
	18:00～ 懇親会（カフェテリア・リーベ）		

プログラム

1日目 10月3日(土)

認定医研修セミナー 10:00～12:00

〔顎関節症の鑑別診断〕

杉崎 正志

東京慈恵会医科大学歯科

大会長あいさつ 13:00～13:05 大会長 杉崎 正志

学会長あいさつ 13:05～13:10 会 長 覚道 健治

一般演題Ⅰ 13:10～13:40

座長：小野 圭昭 大阪歯科大学 高齢者歯科学講座

〔活 動〕

01 東京慈恵会医科大学附属第三病院歯科口腔外科における口腔ケアの取り組み

○佐藤 優、伊介 昭弘、玉井 和樹、入江 功、高倉 育子、海野 博俊、
藤瀬 和隆、杉崎 正志

東京慈恵会医科大学歯科

02 赤穂市民病院における摂食嚥下チームの活動

○村上賢一郎

赤穂市民病院 歯科口腔外科

03 歯科衛生士による専門的口腔ケアの取り組みについて

○羽賀 淳子

都立府中病院 看護部 看護科

〔 TMD 〕

04 精神的因子が TMD 患者に及ぼす影響について 第3報：
Bruxism を主因とする TMD 患者の長期経過観察

○井原 邦夫

井原歯科クリニック・顎関節研究所

05 当院に於ける顎関節症患者の統計的観察 ―第2報

○岸本 満雄

岸本歯科

06 ナビゲーションシステムは顎関節開放手術に有効か

○有家 巧

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 口腔外科

〔 摂食嚥下調査 〕

07 介護老人福祉施設における嚥下内視鏡を用いた摂食機能評価の取り組み

○高橋 賢晃、菊谷 武、田村 文誉、戸原 雄、川瀬 順子

日本歯科大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター

08 原始反射発現と摂食・嚥下機能との関連

○川瀬 順子¹⁾、菊谷 武²⁾、高橋 賢晃²⁾、田村 文誉²⁾、戸原 雄²⁾

¹⁾日本歯科大学附属病院 総合診療科

²⁾日本歯科大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター

〔 入院患者のクリティカルパスに口腔ケアを組み込んでいただくために
―口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーション― 〕

窪木 拓男

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 副研究科長

座長：覚道 健治 大阪歯科大学 口腔外科学第二講座

入院患者のクリティカルパスに口腔ケアを組み込んでいただくために
—口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーション—

窪木 拓男 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 副研究科長



【職歴ならびに教育歴】

2009～現在 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 副研究科長
2007～2009年 岡山大学医学部・歯学部附属病院 副病院長（教育・研究担当）
2004～現在 九州歯科大学 非常勤講師
2003～現在 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
2003～現在 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 非常勤講師
2003～現在 岡山大学歯学部同窓会 副会長
2001～2003年 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 助教授
2000～2001年 岡山大学歯学部 助教授
1997～1998年 文部省在外研究員（短期）としてアメリカ合衆国に留学
NIH, Advanced Tissue Sciences 等を訪問
1994～1995年 文部省在外研究員（若手長期）としてアメリカ合衆国,
University of California, Los Angeles に留学
1991～2000年 岡山大学歯学部附属病院 講師
1990～1991年 岡山大学歯学部歯科補綴学第一講座 助手
1986～1990年 岡山大学大学院歯学研究科歯科補綴学専攻

【資格】

09年日本老年歯科医学会 認定医, 指導医
09年日本静脈経腸栄養学会 中国支部学術集会
医師教育セミナー修了（NST 組織開設資格）（中国 No.009）
08年日本口腔インプラント学会口腔インプラント専門医（420号）, 指導医（420号）
06年摂食嚥下問題を考える会 コーディネーターコース修了
05年日本口腔インプラント学会認定医（52号）, 指導医（52号）
04年口腔リハビリテーション認定医（5号）, 指導医（5号）
00年日本顎関節学会 認定医（339号）・指導医（297号）
97年日本補綴学会 認定医（1428号）
02年日本補綴学会 指導医（867号）
03年臨床修練指導歯科医（第363号）
90年岡山大学大学院歯学研究科修了
（歯学博士取得：博甲第807号, 平成2年3月28日）
86年岡山大学歯学部卒業, 歯科医師国家試験合格
（歯科医籍登録：98022号, 昭和61年5月24日）
（保険医登録：岡国歯1818, 昭和61年7月21日）

人口の高齢化に伴って、高齢者が今後数十年にわたって増加するであろうことは、多方面で述べられていますが、歯科界の対応は、未だ具体性を欠いています。例えば、高齢者が増加すると言いつても、元気なご老人が増加するという側面と、要介護高齢者が増加するという両面があります。元気なご老人に対しては、さらに生活の質を向上させ、生きがいをもって社会に継続して貢献していただく必要があります。また、健康寿命の延長を通して、介護予防に注力しなくてはなりません。これは、ひいては医療費の抑制にも繋がるはずです。一方、何らかの原因で介護が必要になられた場合には、生活の質をなるべく落とさないように維持し、可能であれば、寿命を延ばすよう努力して差し上げなければなりません。その際には、我々医療従事者は生命の尊厳を守ることを忘れず、緩和ケアなど終末医療の充実を考慮に入れなければならないでしょう。このように、医療が全身健康に貢献すべき項目は多岐にわたっており、歯科が貢献できる内容も無尽蔵に広がっています。しかし、口腔ケアやNST 活動などにおける歯科の取り組みは、まだまだ十分に整理され効率よく行われているわけでもなく、臨床エビデンスに基づいて体系的に確信を持って行われているというわけでもありません。本講演では、今後の高齢化社会を見据えて、歯科医療がどのような形で貢献できるかを、高齢者のニーズに合わせて、口腔ケア、摂食・嚥下リハビリテーション、咬合リハビリテーションの3点から具体的に論じてみたいと思います。特に、地域の中核病院で始まっている「周術期管理医療」を突破口として、これからの老年歯科医学が目指す口腔リハビリテーション医療がどのように医療に貢献しうるかをお示しし、ご意見を頂戴したいと考えます。本講演が、医科、歯科はもとより、コメディカルスタッフ、コデンタルスタッフにとっても、高齢者医療への参画の道を大きく開くものとなり、国民の健康を少しでもよりよくサポートできるものとなるよう願って止みません。

座長：杉崎 正志 東京慈恵会医科大学歯科

〔 歯科診療時の全身管理 病院歯科の立場から 〕

塚越 完子 都立墨東病院 歯科口腔外科 部長



【略 歴】

昭和48年 東京歯科大学 卒業
東京歯科大学歯科麻酔学教室 助手
昭和50年 東京大学付属病院麻酔科 文部技官
昭和51年 東京歯科大学歯科麻酔科 講師
昭和58年 東京都立墨東病院 歯科
平成6年 東京都立荏原病院 歯科口腔外科
平成11年 東京都立豊島病院 歯科口腔外科
平成19年 東京都立墨東病院 歯科口腔外科 現在

日本歯科麻酔学会 専門医 評議委員

日本障害者学会 評議委員

日本有病者学会 評議委員

医療連携という言葉が歯科領域においても盛んに使われ始めており、よりよい歯科医療を提供するために患者紹介という連携が行なわれるようになって、歯科医療の次元化が進んでいる。これにより歯科医療資源の有効活用が行われ、病院歯科でもその環境を利用した特徴ある歯科診療が行われている。

特に都立病院は公立病院として近隣の歯科医師会との医療連携が盛んにおこなわれており、有病者、障害者、そして口腔外科患者が多く紹介来院し、その病院機能を生かした特徴ある歯科診療が行われている。特に有病者、障害者歯科診療では、患者の口腔状態管理のみならず、全身状態管理も重要な仕事になっている。

近年歯科医療の前進、口腔衛生思想の浸透により、重症な全身疾患がなく、歯科医院へ通院可能な人々の口腔状態はかなり改善されているが、一方、重症な全身疾患があり、一般歯科医院に頻回通院困難な有病者あるいは障害者の口腔状態はまだまだ問題が残されていることが多い。

こうした患者で自宅や施設で療養中の場合には、リスクのある歯科治療は病院歯科へ紹介されて病院歯科外来あるいは入院で歯科治療を行い、処置終了後は近隣の一般歯科医院で口腔管理をされることが最も望ましい。歯科往診制度も行われているが、本来の歯科治療は安全面から考えても、歯科診療室で行われることが最も望ましく、往診で可能な処置、診療室で行った方が良い処置、そして病院歯科で行った方が良い処置などの見極めも重要なことになる。医療安全と治療内容によった患者中心の医療連携がもっと密に行われるようになるならば、患者のQOLの向上に歯科領域からも大きな効果を上げることができるのではないかと考える。

このような患者の往診時あるいは診療室での歯科治療時、口腔衛生指導時の注意事項などを、紹介された症例とともに解説したい。

座長：杉崎 正志 東京慈恵会医科大学歯科

機能性食品としてのチューインガム Chewing gum as functional food

平岡 康隆 株式会社ロッテ 中央研究所 チューインガム研究室



【略歴】

2001 年
関西学院大学理学研究科 修了
2001 年
株式会社ロッテ 中央研究所
チューインガム研究室 入職

「チューインガム」という食品が日本に持ち込まれたのは、一説には明治時代の後期と言われていますが、この食品が子供達の間で大人気となるのは終戦後の昭和20年代前半からになります。

近年までガムは、人前でも常に口を動かし続けるため、日本の文化ではマナーの良くない食べ物であり、また砂糖など糖類の使用や粘着性が高いという理由で、歯・義歯に悪い食べ物という印象が強くありました。その一方、ガムは口の中をさっぱりとさせる効果も昔から知られており、嗜好品の要素も持っていました。

そのような中、1980年代中頃に「眠気防止」や「口臭除去」など機能に特化したガムが人気を集めます。この頃が、一般消費者に機能性食品としてガムの存在が認知され始めた時期と言えるでしょう。

それから約10年後の1997年、食品として認可された糖アルコールの「キシリトール」を使用した「歯に良いガム」が一世を風靡します。この頃からガムが「ヒトの役に立つ食品」として多くの方々に浸透し、世代を問わず食して頂ける食品の地位を得ることができました。

チューインガムは、他の食品とは異なる特徴がいくつかあります。「口の中に長時間入れていても無くならない」、「1食分の咀嚼回数が非常に多い」などです。今回はこのような特徴を生かし、チューインガムを機能性食品として活用する方法と、その研究例をご紹介します。

協賛企業

アグサジャパン株式会社

朝日レントゲン工業株式会社

ウエルテック株式会社

長田電機工業株式会社

株式会社 一色歯科商店

株式会社 ハセガワメディカル

株式会社 ヒョーロン・パブリッシャーズ

株式会社ジーシー

株式会社モリタ

第一三共株式会社

タキロン株式会社

ティーアンドケー株式会社

日本歯科薬品株式会社

ノバルティス ファーマ株式会社

第23回日本顎頭蓋機能学会学術大会

会 長：杉崎 正志

事務局：東京慈恵会医科大学歯科

〒105-8461 東京都港区西新橋 3-25-8

TEL：03-3433-1111 内線 3641 FAX：03-3431-5449

出 版：(株)セカンド  株式会社セカンド
学会サポート <http://www.secand.com/>

〒862-0950 熊本市水前寺 4-39-11 ヤマウチビル 1F

TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025